

肢体不自由児施設の入所、 地域支援等について

全国肢体不自由児施設運営協議会

肢体不自由児施設の概要

(Hospital & Home with School)

入所小規模 : 入所児数平均 37.1 名

通過型 (医療・母子入園228床・2割の社会的入園も)
(短期入所を除いて年間入所総数4,554名)

多機能 : 他種施設併設複合センター

(重心施設 38%、障害者施設25%)

養護学校の併隣設 100%

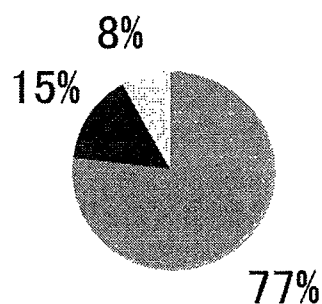
外来(月延11万人)・通園 1,103名・短期入所
地域支援・連携

(巡回相談・離島巡り,校医・通園囑託、
研修会開催,見学・実習引き受け)

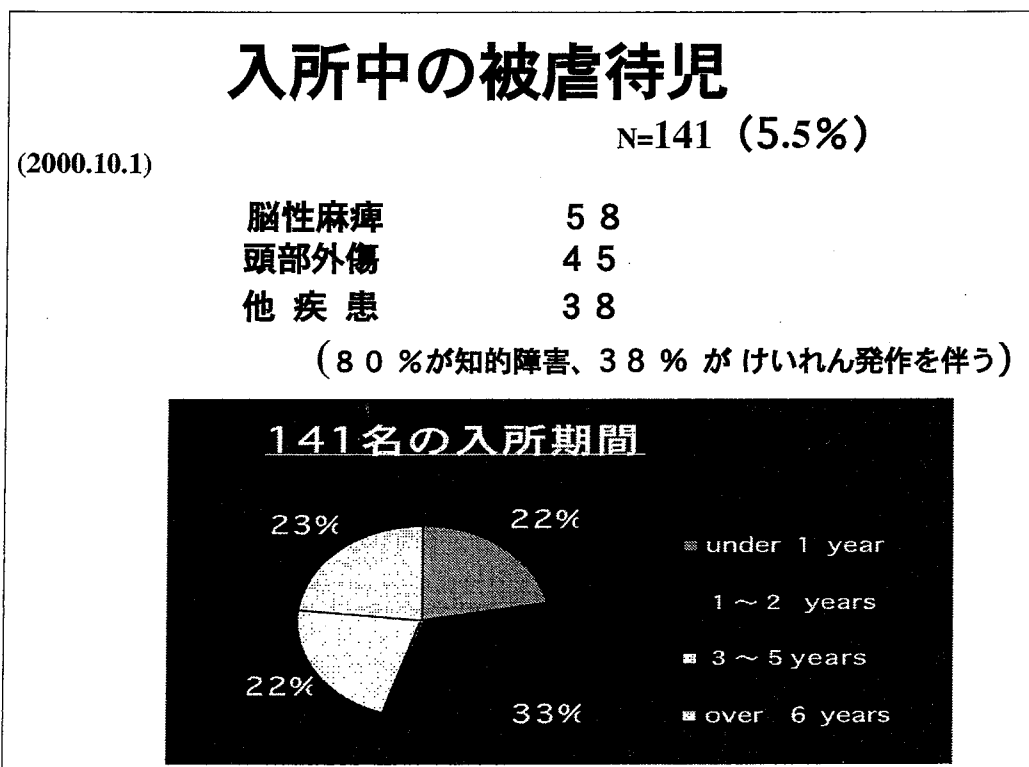
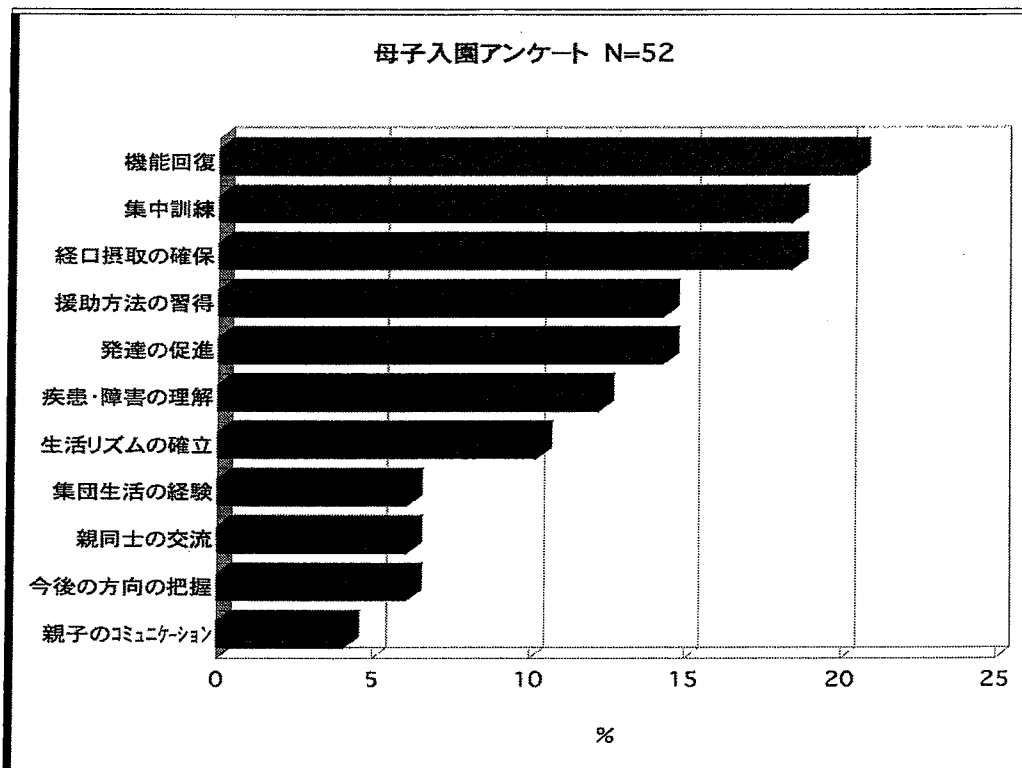
肢体不自由児施設の現在の役割

- * 3次福祉圏域の総合的な療育医療の拠点
養護学校校医・巡回相談・通園等への技術支援
- * 通園・外来・入所機能による早期療育・相談
母子入園・機能向上の手術・虐待等社会的入園
- * 在宅・家族支援を要として重症例への対応
通過型であり、短期入所を広く行っている

入所目的 (N=2,176) 平成19年度



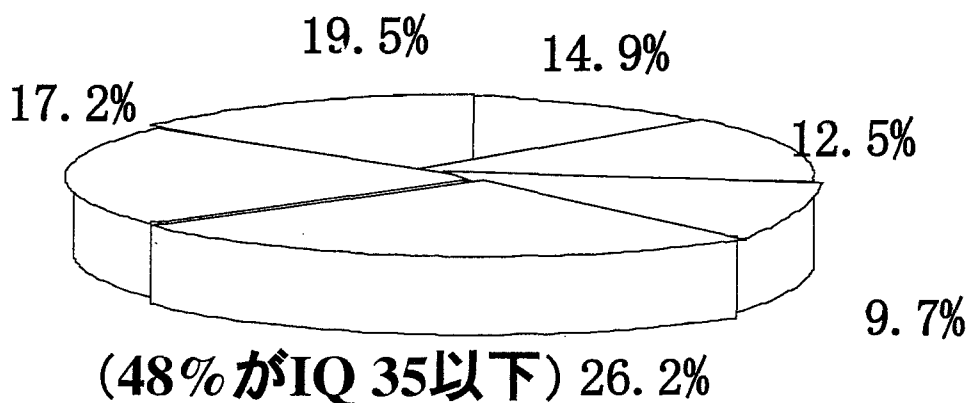
■ 訓練手術 ■ 家庭の崩壊 ■ 虐待



入所児の知能指数

(2008. 3. 31)

N=2, 176



- | | | |
|------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> >75 | <input type="checkbox"/> 74~51 | <input type="checkbox"/> 50~36 |
| <input type="checkbox"/> 35< | <input type="checkbox"/> テスト不可能 | <input type="checkbox"/> テスト未施行 |

地域支援 (全施設地域療育支援事業)

(2007)

巡回相談 6,805件

地域生活支援 11,585件

療育相談 16,094件

(拠点支援事業)

施設支援 514件

在宅支援 1,488件

セミナー 137回

肢体不自由児施設における 「施設外療育活動」に関する調査

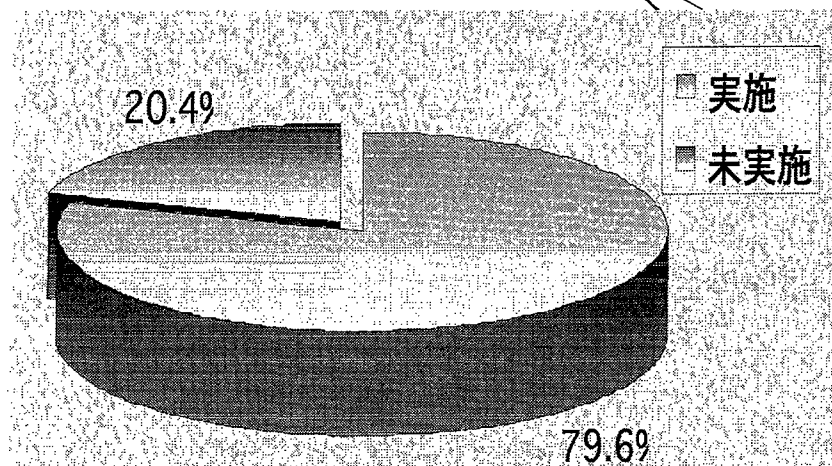
全国肢体不自由児施設運営協議会
平成20年4月

結果

回答数: 49施設(当施設含む)

回答率: 79.0%

「施設外療育活動」の実施状況



施設外療育活動の実施状況

(21施設)

開設平均年数： 46.4年(14年～56年)

実施平均年数： 18.9年(2年～46年)

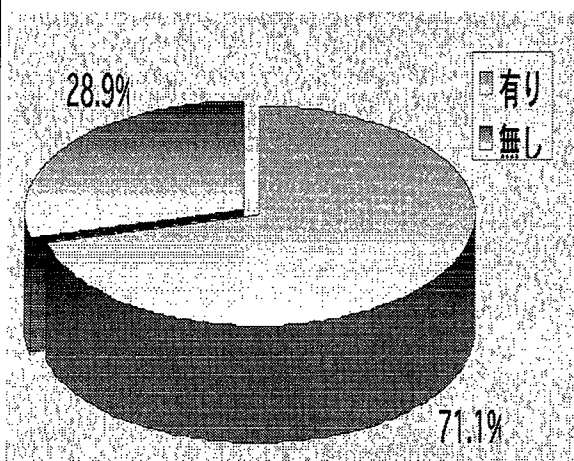
平均実施回数：283.6回

平均実施人数：642.1名

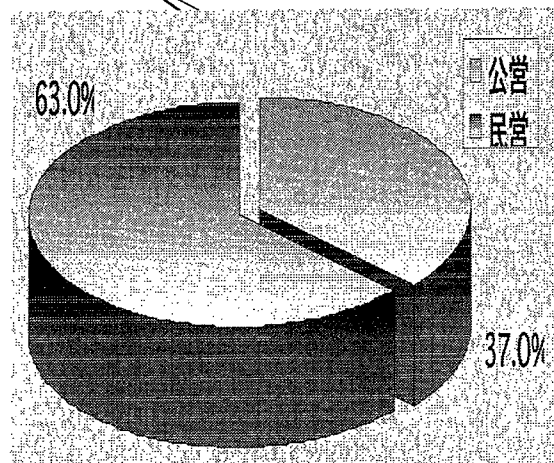
1回平均人数： 2.3名

「療育等支援事業」の受託状況

受託の有無

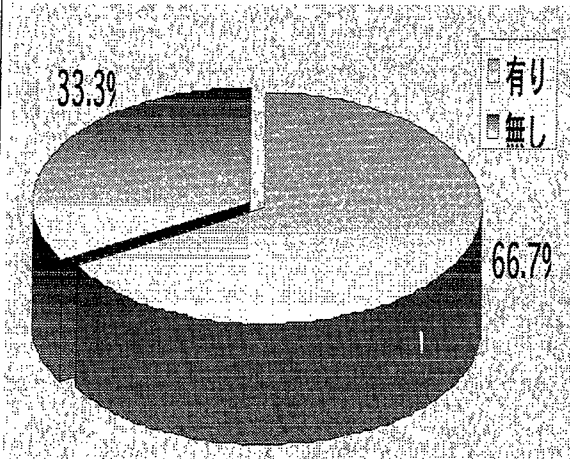


「公営・民営別」の受託状況

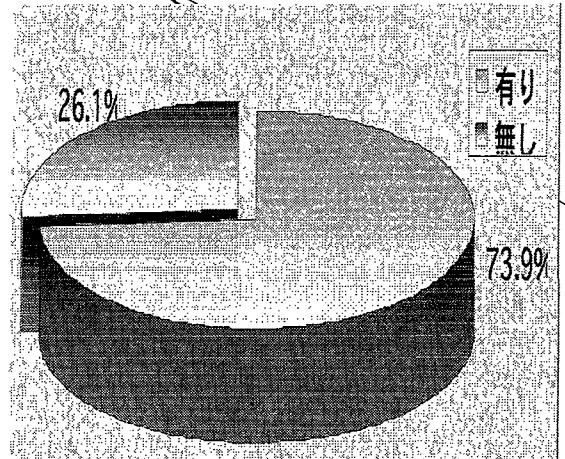


療育等支援事業の受託状況

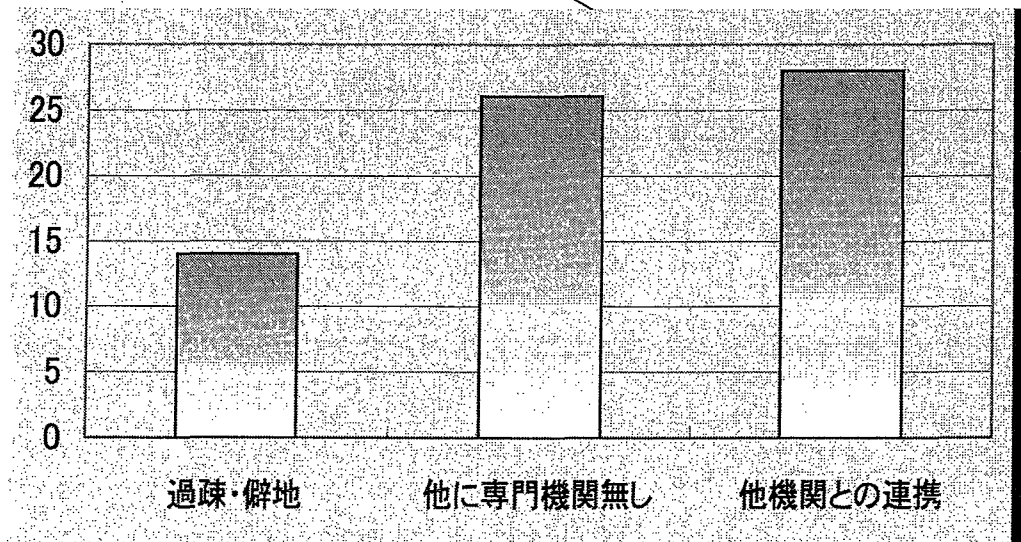
「公営」における受託状況



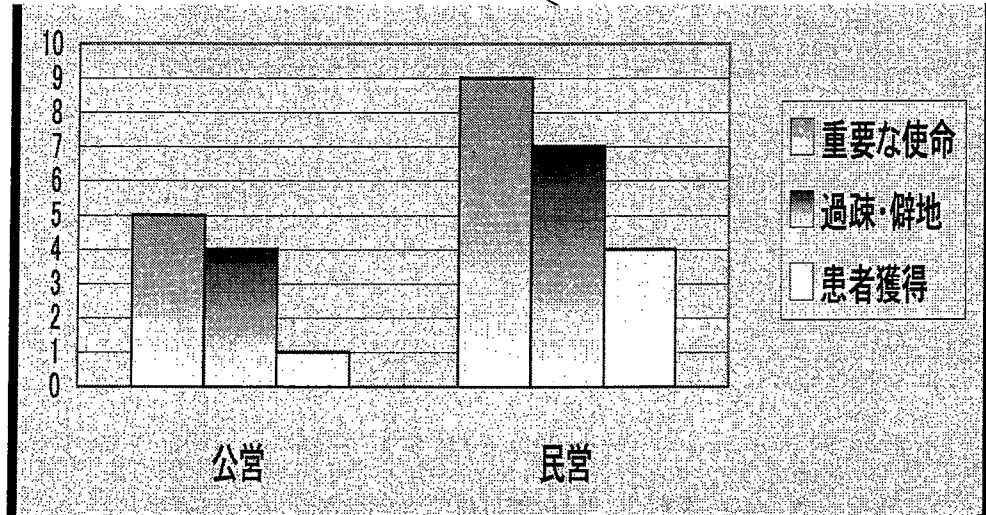
「民営」における受託状況



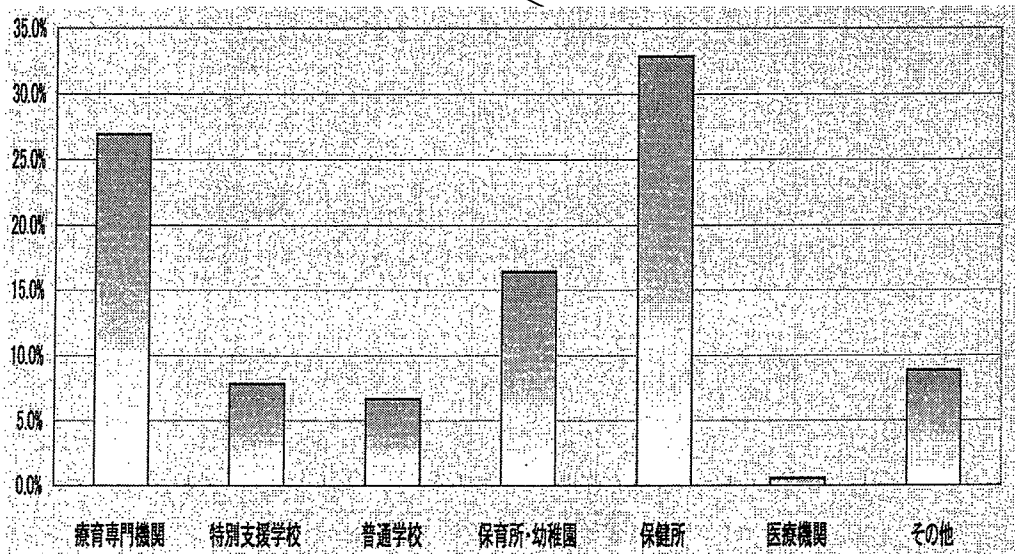
施設外療育活動実施の理由(1)



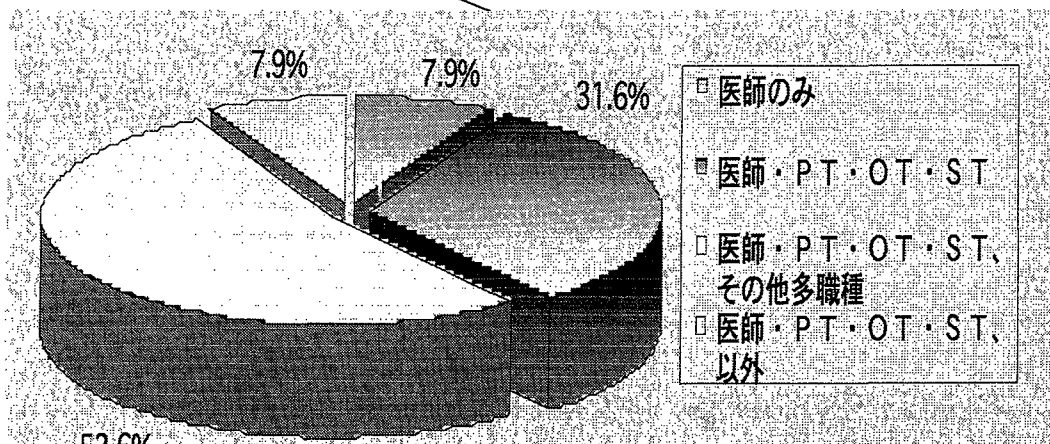
施設外療育活動実施の理由(2)



実施場所の割合



派遣職種の状況



※その他の多職種

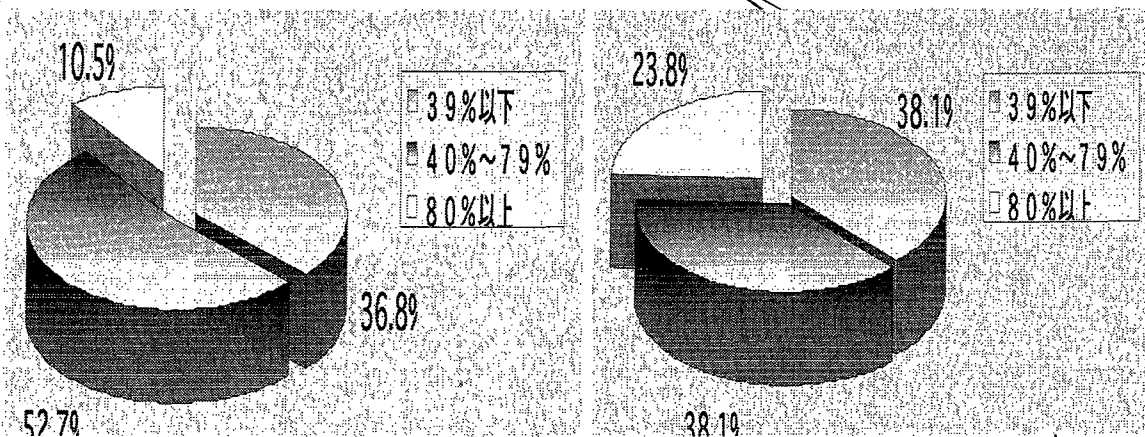
臨床心理士(8) 指導員・保育士(7)
 コーディネーター(5) 看護師・保健師(4)
 社会福祉士(1) リハ工学士(1) 音楽療法士(1)

発達障害児の占める割合

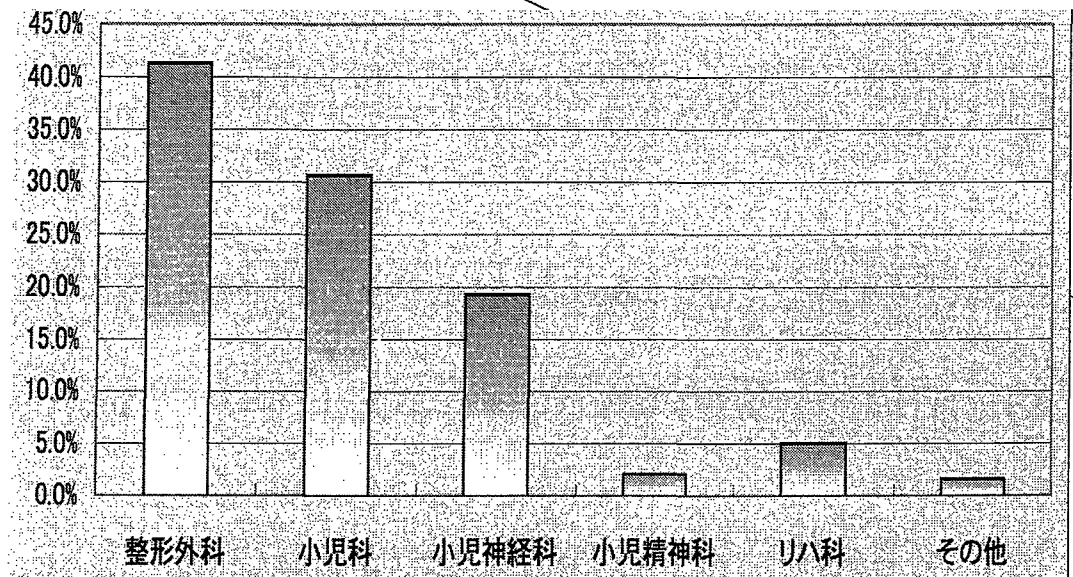
(外来・施設外の比較)

外 来

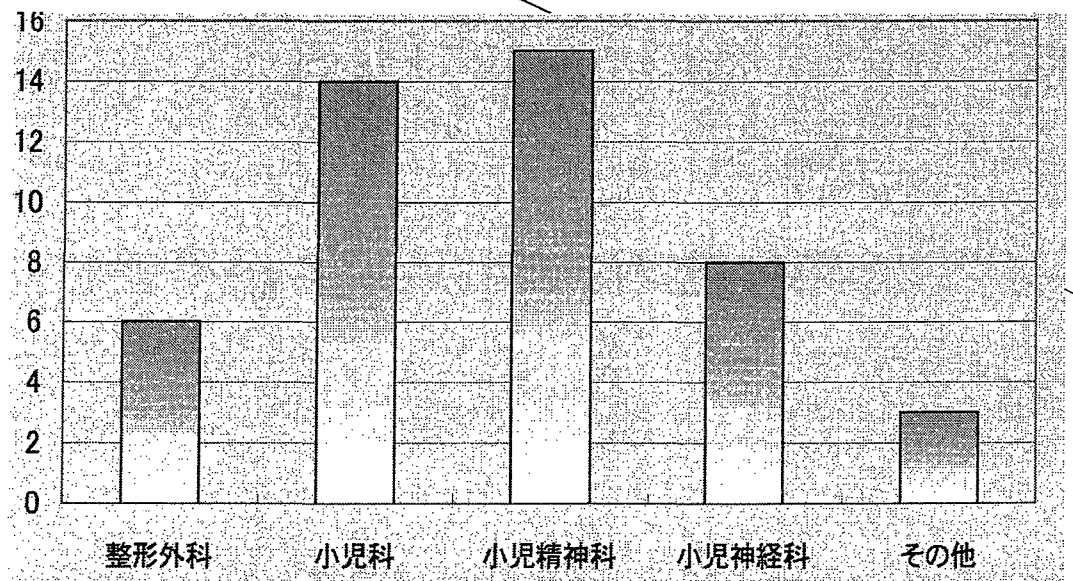
施設外療育活動



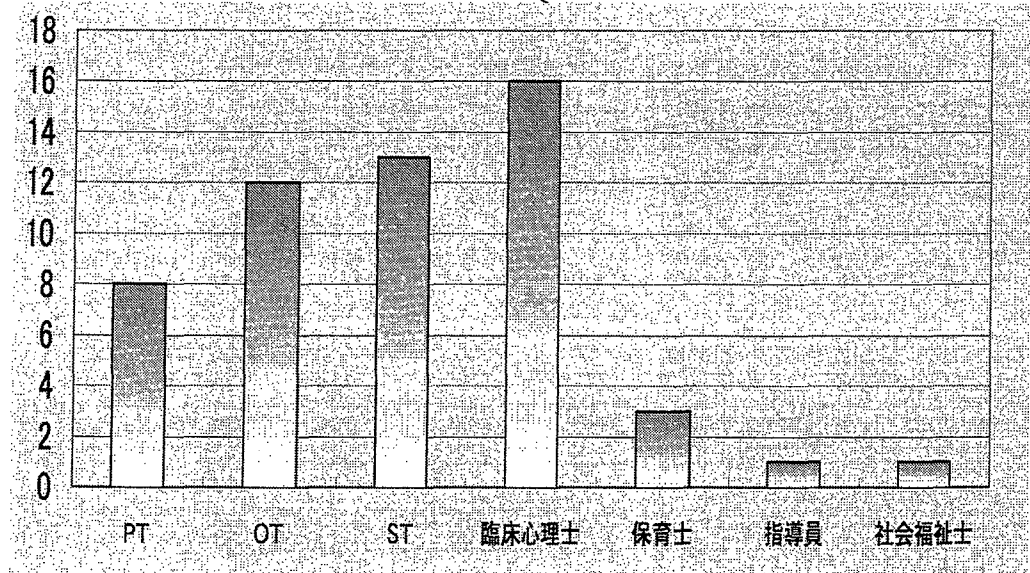
関わっている医師の専門科の割合



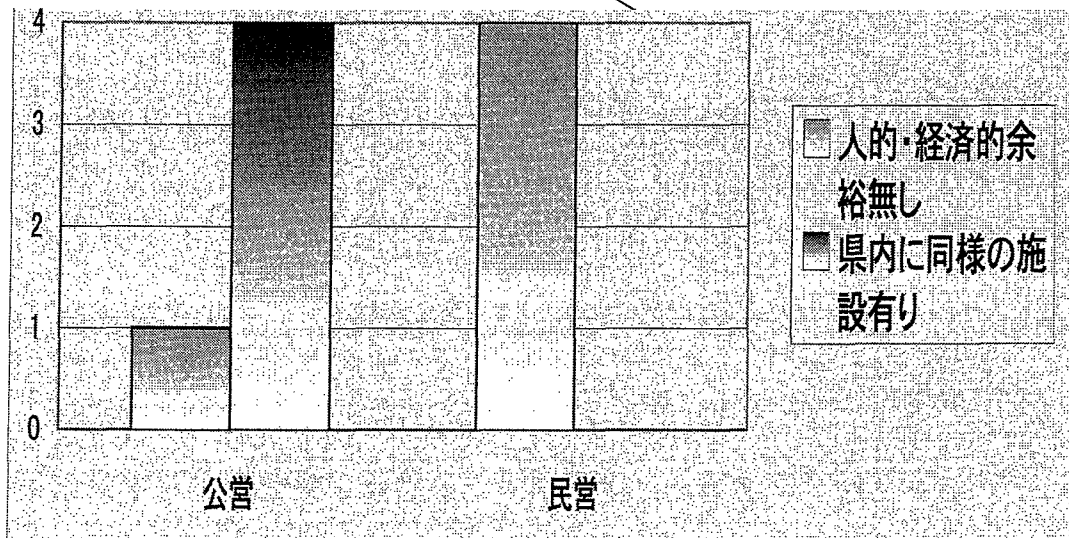
増員したい医師の専門科



増員したい職種(医師以外)



実施していない理由 (公営・民営別)



まとめ

- 「施設外療育活動」は、約80%の施設で実施されており、過疎・僻地を含め「地域での療育機能を補う」大きな役割を果たしていると思われた。
- 実施場所は、療育専門機関、保健所がとくに多く、地域の保育所・幼稚園、学校などでの実施も少なくなかった。
※1施設が、家庭での訪問指導を行っていた。

- 派遣医師は、整形外科医、小児科医が多いが、対象は、発達障害児の占める割合が比較的多く、さらに増加傾向にあることから、小児精神科医、小児科医、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士などの増員を望む施設が多い。
- 公営・民営を問わず、経営的には不利な面が多いが、ほとんどの施設が「重要な使命」と考えて実施していた。
- 地域の状況にもよるが、「施設外療育活動」は、肢体不自由児施設のひとつの重要な役割であると思われた。

発達障害児の地域療育の構図への提言

(療育資源を持つ一肢体不自由児施設から)

自閉症における協同運動障害は

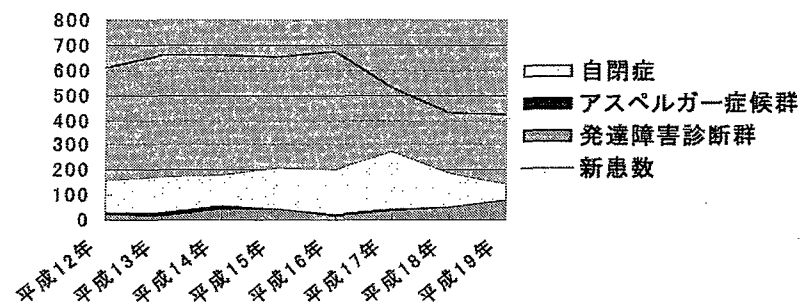
基礎運動能力の障害というだけでは説明できない。そしてこの障害は、社会性、コミュニケーション、行動障害に強く関連しており、自閉症の中核症状でかつ障害の神経学的側面のマーカーでもある。

(MA Dzik 2007 "Dyspraxia in autism association with motor, social, and communicative deficits")

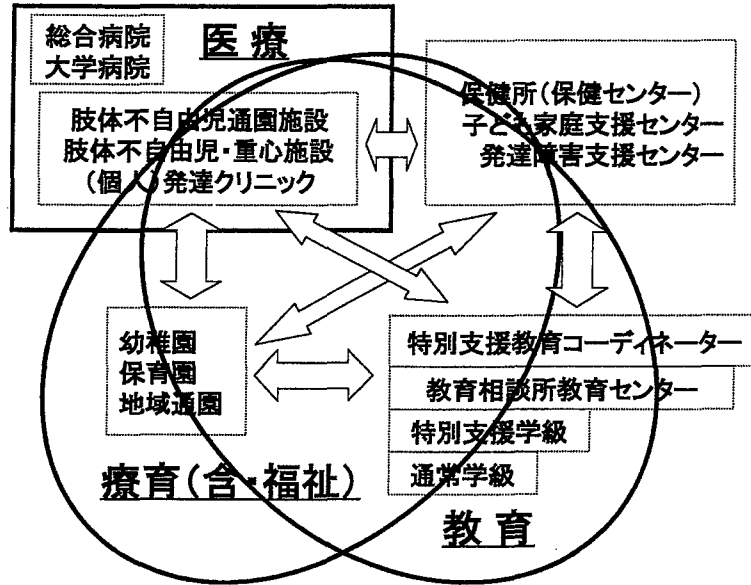
⇒ リハ的介入(医療)がかかわる合理性

発達障害児の外来受診の増加

外来に占める発達障害児



発達障害児の地域療育の構図

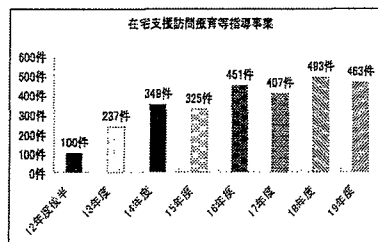
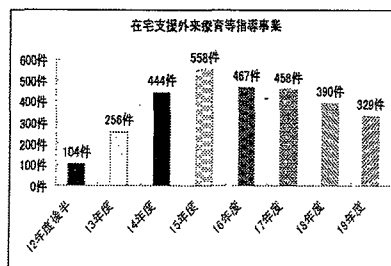
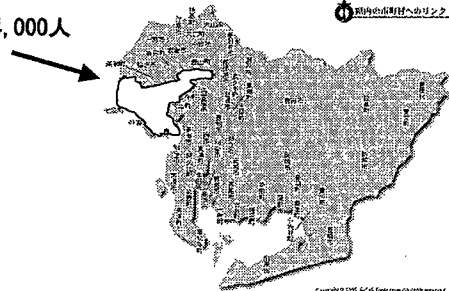


当センターの受け持ち福祉圏域

対象エリア

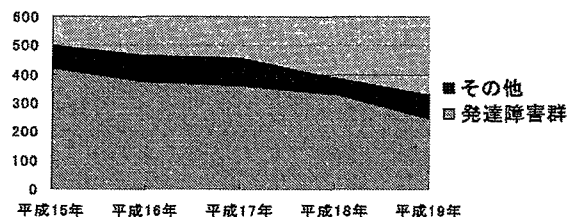
海部津島・尾張中部圏域：全13市町村

人口 484,000人

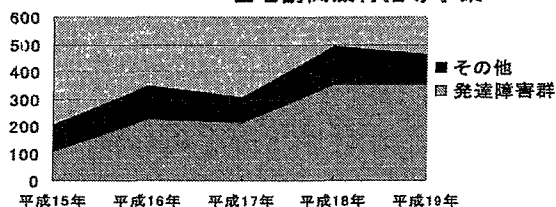


地域療育等支援事業における自閉症支援

在宅支援外来療育指導事業



在宅訪問療育指導事業



発達障害児がリハスタッフに求めたもの

※ 作業療法：平成 19年、15件の場合

OT開始年齢	OT依頼理由	潜む問題点
3歳6ヶ月～9歳1ヶ月 (平均4歳11ヶ月)	力加減が難 2	筋緊張が低い
	利き手がない 1	body image が低い
	すぐ疲れる 1	中枢が不安定
	不器用 12	認知能力
	手を使わない 1	触・聴・視覚過敏
	姿勢維持難 2	

※ 理学療法：64人が継続中

PT依頼理由：すべて粗大運動発達の遅れ

発達障害児がリハスタッフに求めたもの

※ 言語聴覚療法: 191件の指導内容

コミュニケーション支援

前言語	36(19%)	} 128(67%)
言語	73(38%)	
語用論的	19(10%)	
構音障害	14(7%)	
代替コミュニケーション	5(2.6%)	
評価・指導	13(6.8%)	
親サポート	24(13%)	
食事指導	5(2.6%)	
認知処理アプローチ	2(1%)	

「ちびっこくらぶ」の紹介

「ちびっこくらぶ」は、当センターが企画した自閉症児療育グループです。半年を1クールとし、週一度、OT, ST, 保育士、心理士が参加。子どもの見方や関わり方を模索します。

クール終了後も親だけ当センターに月1回集い1年半フォローします。また生活支援事業のもとに子どもの属する地域の保育園、通園施設にスタッフが出向き、保育士と保健師に子どもを理解してもらいます。

結果、地域の保育士・保健師に理解してもらえた。また、親がわが子のことを伝える事ができ、依存的な関わりかたから、一緒に療育計画を。